

製品名: TNFSF11 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81937**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	人間、マウス、ラット、サル、ウサギ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC 1:50-1:500,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	35.5kDa

抗原情報

遺伝子名	TNFSF11
別名	CD254; ODF; OPGL; sOdf; OPTB2; RANKL; TNLG6B; TRANCE; hRANKL2
遺伝子 ID	8600.0
SwissProt ID	O14788
免疫原	大腸菌で発現したヒト TNFSF11 (AA: 74-308) の精製組換え断片。

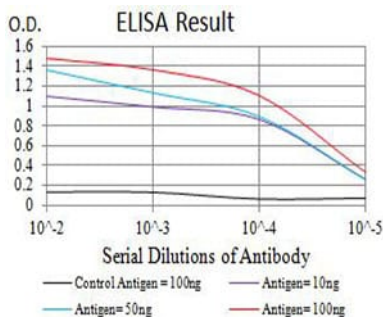
背景

この遺伝子は、オステオプロテゲリンのリガンドであり、破骨細胞の分化と活性化の主要因子として機能する腫瘍壊死因子 (TNF) サイトカインファミリーのメンバーをコードしています。このタンパク質は樹状細胞の生存因子であることが示されており、T細胞依存

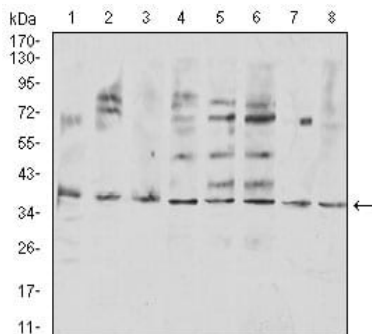
性免疫応答の調節に関与しています。T細胞の活性化はこの遺伝子の発現を誘導し、破骨細胞形成と骨量減少の増加につながる事が報告されています。このタンパク質は、SRCキナーゼと腫瘍壊死因子受容体関連因子 (TRAF) 6を含むシグナル伝達複合体を介して抗アポトーシスキナーゼ AKT/PKBを活性化することが示されており、このタンパク質が細胞アポトーシスの調節に役割を果たしている可能性があることが示唆されています。マウスで関連遺伝子を標的として破壊すると、重度の大理石骨病と破骨細胞の不足が引き起こされました。欠損マウスは、Tリンパ球およびBリンパ球の初期分化に欠陥を示し、妊娠中に小葉状乳腺構造を形成できなかった。2つの選択的スプライシングを受けた転写産物バリエーションが発見された。

研究分野

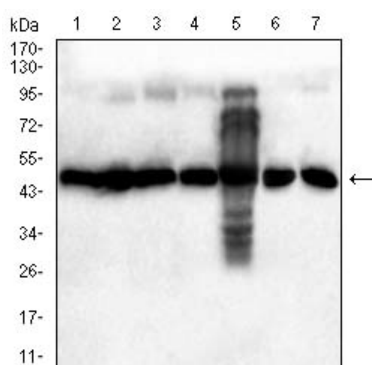
画像データ



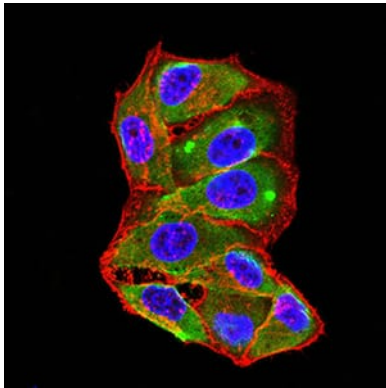
黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



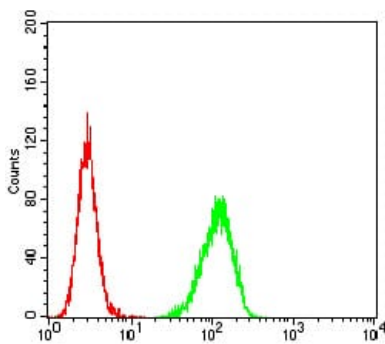
COS7 (1)、HeLa (2)、U937 (3)、HL-60 (4)、Raji (5)、Ramos (6)、Jurkat (7)、および SW480 (8)細胞溶解物に対する TNFSF11 マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



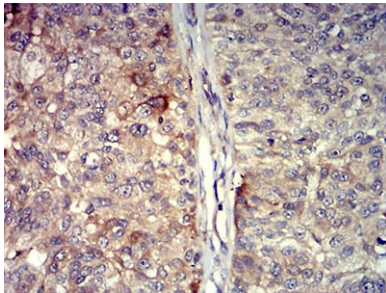
PC-12(1)NIH/3T3(2)C2C12(3)C6(4)L1210(5)F9(6)COS-7(7)細胞溶解物に対する TNFSF11 マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



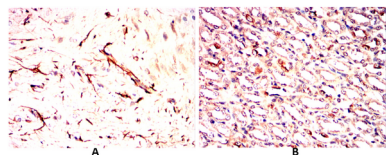
TNFSF11 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



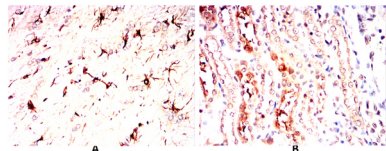
TNFSF11 マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。



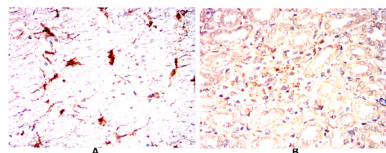
TNFSF11 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト膀胱癌組織の免疫組織化学分析。



TNFSF11 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋マウス脳 (A) とマウス腎臓 (B) の免疫組織化学分析。



TNFSF11 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ラット脳 (A) とラット腎臓 (B) の免疫組織化学分析。



TNFSF11 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ウサギ脳 (A) とウサギ腎臓 (B) の免疫組織化学分析。